

第五課

求めなさい。そうすれば与えられます

祈りの答の確かさ

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。」

(マタイ七・七、八)

「願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです。」

(ヤコブ四・三)

主は、山上の説教の中で、再度祈りについて語っておられます。最初の時は、隠れた所におられ、公然と報いてくださる御父についてお語りになり、また、祈りの模範を示されました(マタイ六・五―一五)。ここで主は、祈りに関する聖書の中心的な教え、すなわち、祈りは聞かれ、答えられるということを教えておられます。まず注意してほしいことは、同じような意味のことばを繰り返して用いられていることです。すなわち、「与えられます。見つかります。開かれます」

と、明白な約束をなさっています。主は更に、その保証の土台となる御国の法則をお与えくださいました。「求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。」私たちはこの三重の願いによって、確信をもって、祈りの答を期待することができ、また期待しなければならぬのです。私はこのように感じないわけにいきません。御父の愛の啓示を除いて、祈りの学校の全学課の中で、「求める者はだれでも受ける」という学課ほど重要なものはにありません。

主がお用いになった三つのことば、求めなさい、捜しなさい、たたきなさいの意味の違いについては、これまで多くの研究がされてきました。それが実際に主が意図されたことだとしたら、最初の「求めなさい」は、私たちが祈り求むべき賜物のことを指しています。しかし、私は、与えてくださる方をそちのけにして、賜物だけを求め、与えられようとしかねない者です。「捜しなさい」は、聖書が神御自身について用いることばです。キリストは、私がキリストを必ず見出せると保証されます。しかし、神との交わりをし続けることをせず、困った時だけ神を見出すとするだけでは不十分です。「たたきなさい」は、神とともに、神のうちにとどまる許可を求めることです。賜物を求めそれを受けることは、与えてくださる方を捜し、見出すことに通じます。更には、御父の家と愛の戸をたたき、これを開かせることへつながります。求めること、捜すこと、たたくことは、決してむだになることはありません。主は私たちが堅く信じることを望んでおられます。神を見出し、神の心と家が開かれるということは、祈りの確かな実です。

主がこのように多くの形式で、真理を繰り返す必要があると考えられたことは、たいへん重要なことです。それは、私たちの心がいかに疑い深く、神に信頼しようとしないうか、また、私たちがいかに答を期待しない単なる宗教的行為のような祈りで満足しやすい者であるか、主が御存知であることを証明するものです。約束を握りしめて祈る信仰の祈りは、いいかげんな弟子にとつて、あまりにも高い標準で、しかも困難な霊的問題のように感じます。しかし、主はそれも御存知です。だから、祈ることを学ぼうとする者への学課の手初めに、祈りが極めて効果があること、「求めなさい。そうすれば与えられます。だれであれ、求める者は受けます」という真理を、深く心にとどめようとなさるのです。これは御国の永遠の法則です。求めても与えられないのは、祈りに間違つた所があるか、あるいは不足した所があるからです。ですから、みことばと御霊に正しい祈りを教えていただきなさい。そして主は、あなたを目覚めさせようとしておいでになるといふ確信を失つてはいけません。求める者はだれでも与えられるのです。

「求めなさい。そうすれば与えられます。」キリストの学校において、忍耐をもって祈り抜くため、これ以上の動機づけはありません。子供は自分のした計算を証明しなければなりません。私たちもまた、祈りの間違いのないということを祈りの答をもって証明しなければならぬのです。もし求めても与えられないなら、それは正しく祈ることを学んでいないからです。キリストの学校の生徒は、求める者はだれでも受けるというみことばをそのまま素直に受け取るべきで

す。これは無条件で求めているものです。人間の知恵によってみことばを弱めないように注意しましょう。主が天のことを教えてくださる時には、主を信じましょう。主を完全に信じる者には、みことばがそれを説明してくださるのです。もし疑問や問題が起ったら、みことばを受け入れない前にそれを解決しようとしてはいけません。すべてを主にお任せしましょう。それを解決するのが主の務めだからです。私たちの務めは、主の約束を完全に受け入れ、それをしっかり握ることです。ですから、隠れた所で、また自分の心の隠れた所で、光の文字をもって「だれでも求める者は与えられます」と書いてみましょう。

主の教えによると、祈りには二つの部分があります。人間の部分と神の部分です。人間の部分は求めることであり、神の部分は与えることです。人間の側からそれを見ると、求める部分と与えられる部分があり、二つが全体を構成しています。それはあたかも、主が、答を得ないで安心してはいけないと教えておられるようです。なぜなら、それは神のみことばであり、御父の家族の原則であるからです。子供のよう求めるのです。答が与えられない時、あきらめという名のいすに座り込んで、答えられないことが神のみことばですなどと考えるはいけません。それは、私たちの祈りが、神の求めておられる、子供のように信じる祈りになっていないからなのです。私たちは、答が与えられるように、祈りの恵みを求めるべきです。信仰の祈りをささげるところを学ばないうちは、御霊によって探られ、きよめられるために自らを投げ出すより、答のない

した経験なしで満足している者が多いということです。その人たちは毎日祈り、多くのことを求めます。そして、そのうちのどれかは聞かれると信じています。しかし、日常生活において、当然のこととして祈りが明確に聞かれるという経験をしていません。実は、この経験が御父の望んでおられることなのです。すなわち、御父は、毎日御自身の子供との交わりを求め、その願いに耳を傾け、それをかなえようとしておいでになります。主は、私が日々はつきりした求めをもつてみもとに来ることを望んでおられます。そして、日々私が求めるものをかなえようと望んでおられるのです。昔の聖徒たちは、祈りの答をいただいて神が生きたお方であることを知り、励みを受けて神を賛美し、神を愛しました（詩篇三四、六六・一九、一一六・二）。私たちの師は、子供たちが求め、御父が与えるという相伴う原則を、私たちの心に刻みつけようとしておられるのです。

時には、モーセがカナン入国を拒まれたように、神のみことばに一致しないという理由でその求めが拒まれることがあります。しかし、そのような場合でも答はあるのです。神は、御自分の子たちが、みこころを知らないままでおくようなことはなさいません。異教の神はおしであり、話をすることはできません。私たちの父は、子供が求めるものをかなえることができない場合で

も、それを知らせてくださいます。それで、御子がゲツセマネでなさったように、子供はその願いごとを取り消します。しもベモーセも、御子キリストも、自分の求めたことが、神の言われたことと一致していないことを知ったのです。この二つの祈りは、神の決定を変えることはできませんでしたが、謙虚な祈りでした。神は、素直で、待ち望む者に対し、みことばと御霊によって、その求めがみどころにかなうかどうかを教えてくださいます。ですから、もし私たちの求めがみどころにかなっていないなら、それを取り消すか、あるいは答が与えられるまで待つかしましょう。祈りが答えられることは定まっています。祈りとその答によつて御父とその子供の間で、愛の交換がなされるのです。

そのような約束を握るのがむずかしいと感ずるとすれば、それは私たちの心が神から遠く離れていることを語るものです。みことばを受け入れ、その真理を信じていても、なおそれを完全に自分のものとして喜ぶ信仰が遅々として成長しないのは、私たちの霊的生活があまりにも弱く、神のみこころを受け入れる力があまりにも微弱だからです。ですから、イエスを唯一の教師として仰いで、その教えを受けようではありませんか。みことばを素直に受け入れ、主の御霊によつてそれを私たちのいのちとし力としてくださるように主によりのむなら、みことばは私たちのうちに深く入り、そのうちに含まれる真理の、霊的な聖なる真実が私たちをとりこにします。そうすれば、私たちのささげるすべての願いが、「求めなさい。そうすれば与えられます」という

イエスのみことばによって天に向けられないならば、満足できないようになります。

イエスの学校の弟子である方々に申し上げます。この教訓をしっかりと自分のものにしようではありませんか。語られたとおりのみことばをそのまま受け入れようではありませんか。人間的な理由を持ち出して、みことばの力を弱めるようなことをしてはなりません。イエスから与えられたとおりに受け入れ、また信じようではありませんか。主は、よいと思われる時に、それを十分に理解する方法を教えてください。みことばを単純に信じることから始めましょう。祈るたびに、「求める者はだれでも与えられる」という主の御声を聞くために、十分時間を取りましょう。それぞれの不信仰の弱い経験を、信仰の計りにしないようにしましょう。祈りの時だけでなく、どんな時にも、地上における私たちの祈りと天上における神の答が相通するものだという、喜びにあふれた確信を持ち続けようではありませんか。答えられる祈りを教えてください。さうに、イエスに信頼をしましょう。「求めなさい。そうすれば与えられます」と、きょう私たちに与えられたみことばをしっかりと握るなら、主はそれをなしてくださいさるのです。

主イエスよ。今お約束くださったことを理解し、信じることを教えてください。答をいただけない時に、私がどのようにに理屈を並べ立て、自分を満足させようとしていたか、あなたはよく御

存知です。私の祈りが御父の隠れたみこころと一致していないと思ったり、更にすぐれたものを与えようとされているのだと考えたりします。また、神との交わりとしての祈りは、それが答えられなくても、恵みであると考えたりします。恵み深い主よ。あなたは祈りについての教えのうちで、あなたがそのようにお語りになっておられないこと、かえって祈りは答を期待していいもので、しかも期待しなければならぬものであることを教えてくださいました。子供が求め、御父が与えられるということが子供と御父との交わりであることを保証なさいました。

恵み深い主よ。あなたのみことばは誠実であり、真実です。私の祈りがうまくいかないのは、祈りが答えられたという私の経験がはつきりしていなかったからに違いありません。私の祈りは御霊によることが少なく、そのため信仰の力が欠けているのだと思います。

主よ。祈りを教えてください。私はそのためによりたのみます。信仰によって祈ることを教えてください。「求める者はだれでも与えられる」という、きょうの学課を教えてください。アーメン。